



## 2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月14日  
東

上場会社名 北日本紡績株式会社 上場取引所  
コード番号 3409 URL http://www.ktbo.co.jp  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)粕谷 俊昭  
問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)篠原 顕二郎 (TEL) 076(277)7530  
四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無 ( 向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	318	25.3	△1	—	7	—	6	—
2023年3月期第1四半期	254	53.2	△48	—	△37	—	△27	—

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 8百万円(—%) 2023年3月期第1四半期 △34百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年3月期第1四半期	円 銭 0.31	円 銭 0.30
2023年3月期第1四半期	△1.63	—

(注) 2023年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年3月期第1四半期	百万円 1,963	百万円 968	% 49.1
2023年3月期	2,071	959	46.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 965百万円 2023年3月期 957百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	667	21.05	△14	—	△9	—	△9	—	△0.47
通期	1,450	22.36	8	—	15	—	15	—	0.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期1Q	19,440,694株	2023年3月期	19,440,694株
2024年3月期1Q	244,231株	2023年3月期	244,231株
2024年3月期1Q	19,196,463株	2023年3月期1Q	17,155,803株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予測に関する事項は、添付資料3ページ「業績予測などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
3. その他 .....	10
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日)における世界経済は、ウクライナ情勢の影響による資源価格高騰の長期化、主要各国での金融引き締め、為替の急激な変動等、依然として油断を許さない状況が続いております。また、世界規模で進む気候変動問題に対しては、各国の脱炭素化の動きがますます活発となり、自動車業界やプラスチック業界への影響が注視されます。

我が国経済においては、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで経済社会活動の正常化が期待される兆しが見えつつある一方で、資源高騰に伴うエネルギー価格および輸送価格の大幅上昇や各資材価格の値上がり、全国的な人手不足問題と人件費上昇等、継続して様々な経営課題に直面しております。

このような環境下、当社グループでは、コスト上昇に対応した売価の価格改定と製造現場の効率化、販売先および仕入先の新規開拓を進めております。中期経営計画の最終年にあたる当年度において、既存事業の発展・強化に努めるとともに、新規事業であるリサイクル事業の収益改善に進め、当連結会計年度での黒字化を目指してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高318,675千円(前年同四半期比25.3%増)、営業損失1,594千円(前年同期は営業損失48,015千円)、経常利益7,781千円(前年同期は経常損失37,533千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益6,111千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失27,970千円)となりました。

当社個別決算につきましては、前年同四半期との比較で売上高、営業損失、経常損失ともに健全化を見せ、売上高が23.3%増加、営業損失が39,254千円改善したほか、経常損失は黒字化し6,964千円の経常利益(前年四半期は32,505千円の経常損失)が発生いたしました。

回次		第100期 第1四半期累計期間	第101期 第1四半期累計期間	前年同四半期比較
会計期間		自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2023年4月1日 至 2023年6月30日	
売上高	(千円)	218,236	269,086	+50,849 (+23.3%)
営業損失(△)	(千円)	△41,957	△2,702	—
経常利益又は 経常損失(△)	(千円)	△32,505	6,964	—

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、各セグメントの営業損失は、各事業に配分していない全社費用33,679千円を配分する前の金額であります。

#### (紡績事業)

当第1四半期連結累計期間における当該事業の状況につきましては、得意先の在庫調整の影響を受け、計画していた生産数量には至らなかったものの、価格改定が進んだことで売上高は増加傾向にあります。

主力のアラミド繊維製品においては、資材用途向けが海外他社との競合により、計画より減産となりましたが、防護衣料用途向けへの転換を進めることとなったために、生産量は前四半期連結会計期間(2023年1月～2023年3月)より微減し、114tとなりました。

一方で、回復傾向にある高級インナー向け紡績糸においては、需要のシーズンに入ったこともあり、生産量は前四半期連結会計期間の約3倍を超える21tとなりました。その他、ポリエステル等の他素材については、生産量は前四半期連結会計期間との比較では減少したものの、前年同期並みに推移しております。

この結果、紡績事業の第1四半期連結累計期間の業績は、売上高96,124千円(前年同期比12.4%増)、営業利益3,741千円(前年同期比1,319.2%増)となりました。

#### (テキスタイル事業)

当第1四半期連結累計期間における販売状況につきましては、中東及び東アジア各マーケットにて現地での需要は堅調ではあるものの、委託加工先のスペースと人手が不足している影響から、染色及び出荷作業に遅れが出ている状況です。

引き続き第2四半期以降も成約済み契約の消化を急ぎながら、加工場のリソース確保と、高騰する保管・輸送コストの見直しを随時行っていくことが課題となります。

この結果、テキスタイル事業の第1四半期連結累計期間の業績は、売上高116,597千円(前年同期比2.3%増)、営業利益5,777千円(前年同期比188.3%増)となりました。

#### (ヘルスケア事業)

当第1四半期連結累計期間における当該事業の状況につきましては、新たに香港向けに日本製化粧品の出産を開始したこと、及び子会社である中部薬品工業の収益構造の健全化が順調に推移したことにより、計画を超える営業利益を達成することができました。

この結果、ヘルスケア事業の第1四半期連結累計期間の業績は、売上高31,920千円(前年同期比37.4%増)、営業利益2,788千円(前年同四半期は10,555千円の営業損失)となりました。

#### (リサイクル事業)

当第1四半期連結累計期間における当該事業の業績につきましては、生産及び販売ともに順調に推移しております。加えて大口転売品の商談が成立したことにより収益も大幅に改善しており、事業別の営業利益では黒字化を達成しました。

この結果、リサイクル事業の第1四半期連結累計期間の業績は、売上高74,033千円(前年同期比134.7%増)、営業利益19,777千円(前年同四半期は7,365千円の営業損失)となりました。

ただし、現在の中国市場を中心とした世界的な需給悪化、及び原油ナフサを中心とした原料価格の下落が第2四半期以降の当該事業に与える影響に注視してまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

総資産は前連結会計年度末より108,195千円減少し1,963,144千円となりました。これは主に、借入金の返済及び諸税金の納付により現金及び預金が79,843千円減少し206,733千円になるとともに、四半期末月の売上高が小さかったこと及び入金サイトの短期化により、受取手形及び売掛金が20,393千円減少し、118,602千円に、前連結会計年度末に出荷が遅延していた在庫を販売したことにより商品及び製品が8,977千円減少し98,684千円になった影響であります。

### (負債)

負債は前連結会計年度末より116,282千円減少し995,121千円となりました。これは主に、借入金の返済により、短期借入金が20,000千円減少し519,500千円に、長期借入金が83,229千円減少し103,622千円に、消費税の納付により未払消費税が14,061千円減少し4,042千円に、法人事業税及び法人住民税の支払いにより未払法人税等が7,111千円減少し3,073千円になった影響であります。

### (純資産)

純資産は前連結会計年度末より8,086千円増加し968,023千円となりました。主な内訳は、四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が6,111千円増加し△1,151,616千円に、投資有価証券の時価上昇によりその他有価証券評価差額金が1,975千円増加し10,961千円になった影響であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想については2023年5月15日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	286,577	206,733
受取手形及び売掛金	138,996	118,602
商品及び製品	107,661	98,684
仕掛品	21,651	23,695
原材料及び貯蔵品	7,773	9,857
その他	25,651	24,717
流動資産合計	588,312	482,290
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	55,399	53,913
機械装置及び運搬具(純額)	42,607	61,139
土地	971,557	971,557
リース資産(純額)	2,703	2,527
建設仮勘定	178,949	158,400
その他(純額)	4,850	5,371
有形固定資産合計	1,256,067	1,252,910
無形固定資産		
ソフトウェア	188	141
リース資産	0	0
電話加入権	97	97
のれん	54,875	53,292
無形固定資産合計	55,161	53,531
投資その他の資産		
投資有価証券	138,193	141,033
敷金及び保証金	31,804	31,804
繰延税金資産	620	450
その他	1,180	1,123
投資その他の資産合計	171,798	174,412
固定資産合計	1,483,027	1,480,854
資産合計	2,071,340	1,963,144

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	36,391	44,258
短期借入金	539,500	519,500
1年内返済予定の長期借入金	24,282	24,996
リース債務	1,048	1,048
未払消費税等	18,104	4,042
未払法人税等	10,184	3,073
賞与引当金	8,401	3,996
その他	49,515	53,415
流動負債合計	687,428	654,332
固定負債		
長期借入金	186,851	103,622
リース債務	3,043	2,781
繰延税金負債	5,492	6,332
再評価に係る繰延税金負債	202,560	202,560
退職給付に係る負債	13,380	12,845
その他	12,648	12,648
固定負債合計	423,975	340,789
負債合計	1,111,403	995,121
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,198,316	1,198,316
資本剰余金	496,911	496,911
利益剰余金	△1,157,727	△1,151,616
自己株式	△32,863	△32,863
株主資本合計	504,636	510,748
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,986	10,961
土地再評価差額金	443,577	443,577
その他の包括利益累計額合計	452,564	454,539
新株予約権	2,735	2,735
純資産合計	959,936	968,023
負債純資産合計	2,071,340	1,963,144



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年6月30日)
売上高	254,221	318,675
売上原価	237,721	255,828
売上総利益	16,500	62,847
販売費及び一般管理費	64,515	64,441
営業損失(△)	△48,015	△1,594
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	5,447	3,653
不動産賃貸料	2,170	1,490
為替差益	3,917	6,864
その他	1,395	351
営業外収益合計	12,934	12,362
営業外費用		
支払利息	2,286	2,849
その他	165	137
営業外費用合計	2,452	2,986
経常利益又は経常損失(△)	△37,533	7,781
特別利益		
投資有価証券売却益	12,068	—
特別利益合計	12,068	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△25,464	7,781
法人税、住民税及び事業税	1,525	1,525
法人税等調整額	980	144
法人税等合計	2,505	1,669
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△27,970	6,111
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△27,970	6,111

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△27,970	6,111
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,269	1,975
その他の包括利益合計	△6,269	1,975
四半期包括利益	△34,239	8,086
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△34,239	8,086
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前連結会計年度まで5期連続で営業損失を計上したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社は、当該事象に対応すべく、以下の対応策を実施しております。

#### ① 紡績事業及びテキスタイル事業の強化

紡績事業は、取引先との連携強化、研究開発の迅速化により高機能繊維の開発及び生産効率の改善をより一層図り利益率の向上を図ってまいります。

テキスタイル事業は、グレードの多様化による販売強化に取り組んでおります。

#### ② ヘルスケア事業の強化

ヘルスケア事業は、海外向けに販売可能な商品の開拓、連結子会社である中部薬品工業を中核としたオーラルケア用品や健康補助食品の開発強化に取り組めます。

#### ③ リサイクル事業の強化

リサイクル事業は、営業人材確保による原材料の仕入強化及び製造設備の拡充による取扱い可能品目の多様化によって事業を拡大していき、売上と利益の拡大を図ります。

#### ④ キャッシュ・フローの改善

運転資金面では、金融機関からの当座貸越契約により調達した資金を活用しているものの、新規設備や商品仕入の先行投資のため、キャッシュ・フローは継続してマイナスの状態にあります。引き続き、新株予約権行使促進等の資金政策を進めるとともに、投資の早期収益化に努めてまいります。なお、2023年1月17日に第三者割当による新株及び新株予約権の発行を決議し、同年2月7日に発行価額の払込を受けていることから、今後の資金的余裕は担保しております。

これらの対応策を進めていくことにより、当第1四半期会計期間末において継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。